



異物混入防止対策について② 従業員由来の異物混入防止対策

前回は、「昆虫類の防除対策」についてご紹介しました。今回は、「従業員由来の異物混入防止対策」についてです。

従業員由来の異物混入につながるものは大きく分けて、①頭髪などの体毛、②ユニフォームや絆創膏など身に付けているもの、③ペンなどの所有備品があります。

事例

頭髪

頭髪の混入

惣菜類、寿司(持ち帰り)、生洋菓子、豆腐、魚肉練り製品等に頭髪が混入していた事例がありました。

原因は以下の2点と推察されます。

原因 1

従業員から、あるいは従業員の服に付着していた頭髪が落ちて食品に直接混入。

原因 2

製造時に食品を入れる器具や容器に頭髪が入り、食品内へ混入。



① 頭髪の混入防止対策…頭髪の自己管理を中心とした個人衛生管理!

頭髪は一日に70~80本抜け落ちるといわれています。抜けた頭髪が食品の上に落ちて、それに気が付かないままお客様に提供すると、大きなクレームに発展する恐れがあります。**清潔な服装**や**適切な身だしなみ**で調理に携わることが重要です。

従来、頭髪の混入防止対策としては、着衣や帽子・ネットの着用方法等を中心にあげられてきましたが、これらの対策だけでは、減少させることが出来ないのが現実です。

頭髪の落下や混入を防止するには、帽子を適切に着用するとともに、**毎日の頭髪の手入れ**(ブラッシングやシャンプーを実施)によりすでに頭皮から抜けて頭部に付着している頭髪を職場に持ち込まないなどの**個人衛生管理**が不可欠です。

作業場の全ての従業員にこれらのことを習慣づけるためには、着衣や帽子・ネットの着用などと並行して、「**頭髪の自己管理**」を組み合わせることが効果的と考えられます。責任者の方が中心となって、頭髪に関する基礎知識などを全従業員に教育し、従業員が頭髪の自己管理を行えるようにしましょう。具体的には次の6点について、無理なく実施出来るような管理体制を作ることがポイントです。

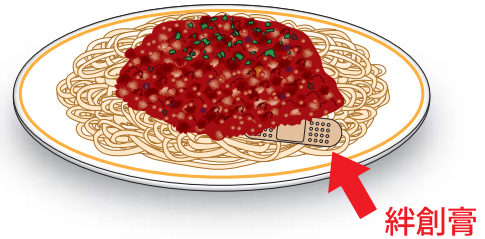
- ① 頭髪がはみ出ないように帽子をかぶる
- ② 頭髪に手を触れない
- ③ 毎日の洗髪を励行(最低限2日に1回)
- ④ 毎日の頭髪の手入れ(ブラッシングなど)
- ⑤ 粘着ローラーの活用
- ⑥ 服装や身だしなみを鏡で確認する



事例
身に付けるもの

絆創膏の混入

パスタに使用済み絆創膏が混入していた事例がありました。
原因は、従業員の指に巻いていたものが外れたことによるものと言われています。

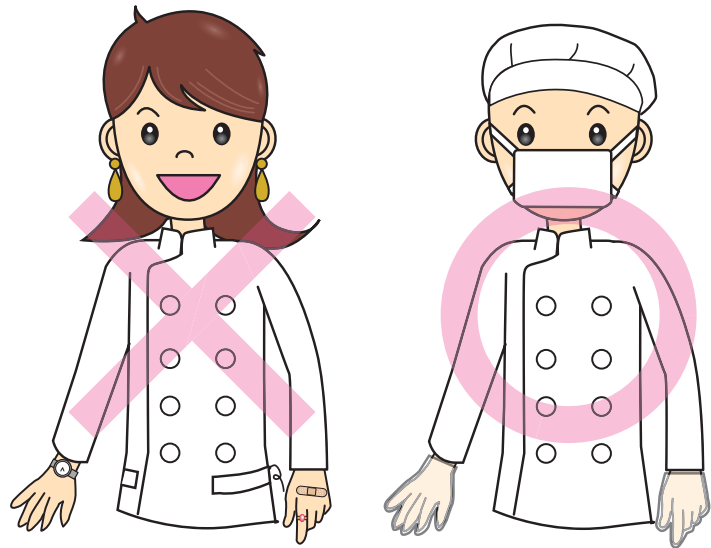


②身に付けているものの混入防止対策…基本は「身に付けない」

装飾品や時計など、作業時に**不要なものは身に付けない**ことや、**ユニフォームを適切に着用**することが重要です。

手荒れや手にキズがある場合は絆創膏の有無に関わらず、調理作業時には**使い捨て手袋の着用**を徹底することで、異物混入だけでなく二次汚染の防止にもつながります。

また、ユニフォームは、**内側のものが外側に出ないような構造のもの**を使用することが有効で、例えばポケットなどが外側にないものを着用することが推奨されています。



事例
備品

鉛筆の混入

チョコレート(ドーナツ)の中に鉛筆の芯が混入していた事例がありました。
原因は、ドーナツの製造記録の記入に使用されていた鉛筆が紛失しており、ドーナツ粉を練る機械に混入した可能性が示唆されています。

③ペンなどの備品の混入防止対策…基本は「持ち歩かない」

できるだけ**備品を持ち歩かない**ことが望ましいですが、記録などのために最低限のペンや測定ツールを持ち歩くことがあります。その場合、まず**自分の体から極力離れないような工夫**(例えば首から下げたひもに結び付けておくなど)が必要です。また、ペンであればキャップのないボールペンにする(シャープペンや鉛筆などの芯が折れるものは厳禁)など、**分離する部分がないものを選定**すべきです。そのほかの測定ツール(温度計など)も、基本的に同じ考え方で管理することが望ましいと考えられます。

